

乳牛經濟檢定の記録に基づく

わが家の飼料設計

中島 康夫

わが国農業とくに寒地農業の振興策は酪農進展をもつて基本とされ、あらゆる施策が講ぜられておりますが、現実の酪農には諸問題がからんで一進一退の実情にあります。

昭和二十六、七年度の計画と実績は第一、二図のとおりであります。

牛舎には月毎産乳量記入簿のほか、基礎飼料の麥り目に飼料計算をなし、飼料の給与プランを立てて貼付け、これによつて給与した。また一カ年間の飼料給与記入表と月別泌乳グラフ表を一表にまとめて貼り付け、家畜全般の濃厚飼料の給与まで書きこんで見ました。泌乳量は一カ月三旬に分けて平均日量を乳牛別にグラフに表わし、月々の計も出してあります。かくて乳牛の管理に楽しさが湧き、泌乳量増減などの原因も知ることができて、生活の張合いも生じ、経営技術の向上も自ずと生まれ、乳牛個体の能力に応じた飼料給与が効を奏し、この牛も栄養がよくなつたのであります。

一般農家の現況を静かに考えて見ると、労働の過重に甘んじ、その生産性の昂揚を考へようとせず、ために農業技術の向上、経営の合理化、生活改善の意識も起り得ないのが実態であります。かく考へて来ると、一つの計画のなかで実績を記録してゆくことは非常に大切であり、これに基づいて検討しながら無駄足を踏まぬよう進むべきだと考へて、従来牛舎に泌乳記録簿と飼養管理日誌を設けてその足跡を印して来ましたが、その結果酪農は乳牛そのものでなく経営のなかに、牛、人、土地が融合して行つて始めて生活の楽しみがわいてくることかわかり、それから輪作の確立と相まつて経営全般の改善に努力してまいりました。

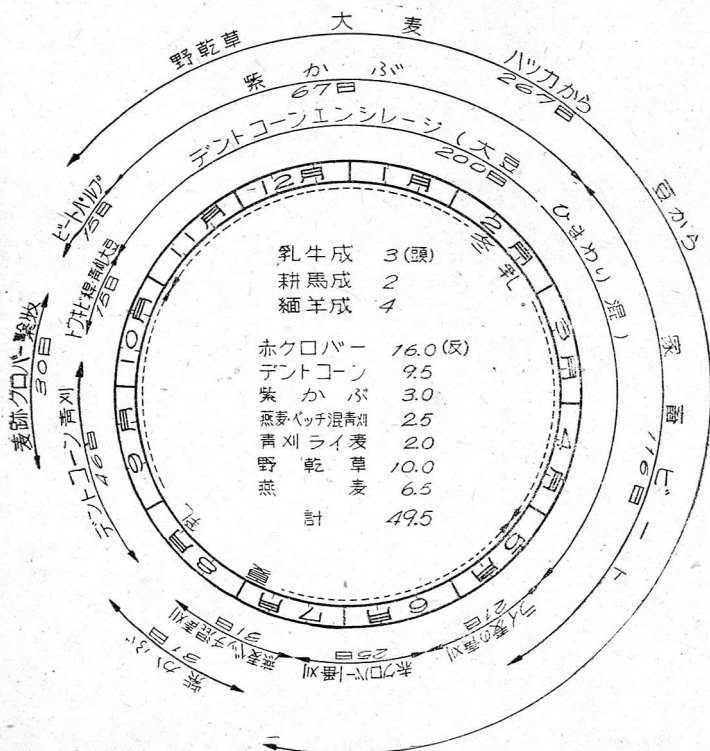
さらに乳牛經濟檢定組合の発足に当り、率先加入し記帳と反省をくり返した結果、「乳牛經濟は多汁性飼料を連続給与することから先決なり」と考へ従来資料をもとに細密なる飼料計画を立て、実行いたして

いまここに購入飼料との価格の差を調べて見ますと第一、二表のとおりであります。また自家生産配合飼料は経済的であるばかりでなく、青刈大豆が二五%入つておるためか、消化機能が良好になり多汁性飼料を多く与えても支障なく、したがつていぢるしく泌乳能力の向上を見たのであります。

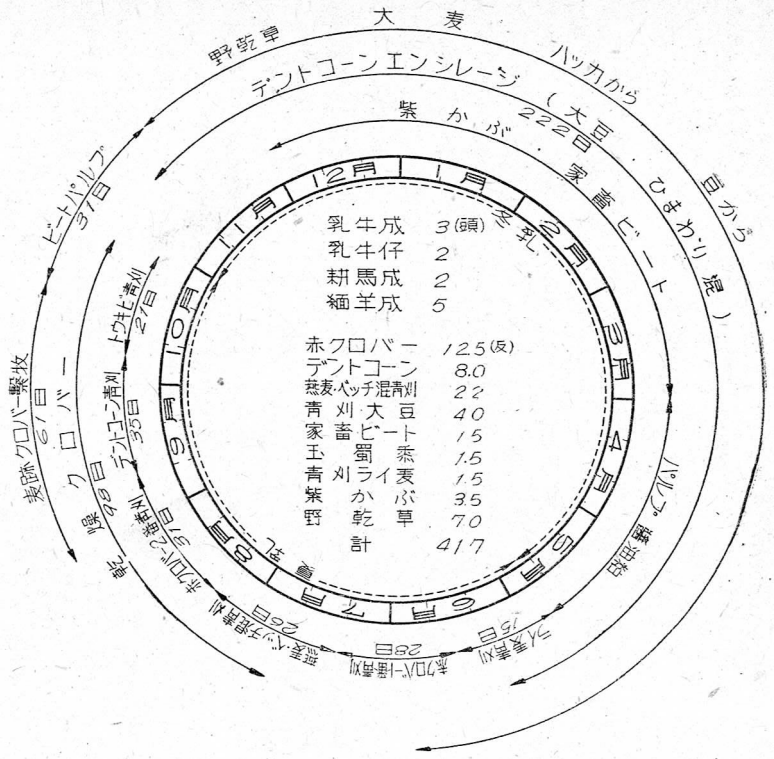
經濟檢定の結果を省みて、乳牛經濟は年間を通じ良質の基礎飼料を間断なく豊富に与えることであり、このことは飼料經濟と、乳期のむらのない泌乳量の増加をはかり得ることをしめしむ感じ、二十八年度はつぎのように計画いたしましたのであります。

- ◇二十八年度
- 家畜 乳牛成三頭、仔一頭、耕馬成二頭、仔馬二頭、緬羊成七頭
- 飼料 赤クロバー一五・五反、デントコーン七・五反、青刈大豆四反、燕麥ベッチ混青刈二反、家畜ビート二反、紫かぶ三・五反、玉蜀黍二反、燕麥六反、野乾草五反、合計四七・五反
- さらにラデノクローバーによる電牧利用を計画し、七反歩を三区にわけ輪還放牧を行つたのであります。六月八日利用を開始

第一圖 昭和年26度夏乳～冬乳飼料給與



第二圖 昭和27年度夏乳～冬乳飼料給與



したが二三日でたちまち乳量の上昇を見て、いままで予期もしなかつた「きりしま号」が十日平均日量二斗四合、最高日量二斗三升という驚くべき乳量を示し、さらにまた前年十一月分産の十二歳になる老牛がまだかつてない泌乳量を示し、二十八年十一月分産予定であるが、八月末にいたるもなお一斗内外の泌乳実態を見て、ラデノークロバーの効果をつくつくと感じその能力の偉大さにいまさらのように目を見開く

とともに今後の飼料計画に勇氣百倍するを覚えたのであります。
ここで検定開始以前と以後の乳量について比較して、いかに経営の計画性と記録に基づく科学的考察によつた飼料計画が経営全体に反映して、土地作物を通じて乳牛そのものにはつきり現われて来たことを認め、欣快にたえない次第です。
本年十一月分産牛二頭、明年五月分産牛二頭、計四頭の搾牛を予定しておる私は明

第一表 購入飼料配合 (二十七年産)

飼料名	配合割合	FE	蛋白質質量	一斗当り	価額
大豆	一・二〇斗	一・五斗	四・五斗	四・〇一斗	四九二円
裸麦	一・八〇斗	一・〇斗	一・〇〇斗	二・七六斗	二二・一七斗
小麦	一・三〇斗	一・〇斗	一・四〇斗	一・八六六斗	二二・三〇斗
燕麦	一・二〇斗	一・〇斗	九〇斗	二・六六七斗	三三・〇〇斗
計	五・五斗	四・五斗	七・八〇斗	一	二五六八斗

第二表 自給飼料配合 (二十八年産)

飼料名	配合割合	FE	蛋白質質量	一斗当り	価額
青刈大豆	二・五斗	一・〇斗	二・四斗	二・七六斗	二九四〇円
米	一・三斗	一・三斗	一・〇八斗	一・三〇〇斗	一四四〇円
麦	一・三斗	一・〇斗	一・五斗	一・八三三斗	二三八三円
玉きび	二・〇斗	二・〇斗	一・三〇斗	一・六六七斗	三三〇〇円
燕麦	一・三斗	一・〇斗	九〇斗	二・六六七斗	三三〇〇円
醬油	一・三斗	一・〇斗	一・五斗	三・七三斗	四四八〇円
魚粕	一・〇斗	一・〇斗	三・七斗	五・〇〇斗	三五〇〇円
計	一〇・一斗	八・三斗	一・二三八斗	一	一七二四五円

一斗当り価格 一七・二五円
 一斗当り価格 二二・〇二円
 蛋白一〇〇瓦当り価格 一三・九三円
 一升当り重量 〇・五五斗
 一斗当り重量 〇・五五斗
 二十九年度の飼料計画をいかにすべきか、過去に積み重ねて来た数字と体験を基に良質飼料の豊富な生産確保を期し、管理技術と相まつて努力の配分及び節減により経済的牛乳生産をはかり、以て農業経営の合理化に邁進したいと考えております。(昭和二十八年秋)
 (筆者は北海道網走郡東藻琴村精農家)